城下町さいき散策マップ

匠

毛利二万石の城下町

○初代毛利高政
慶長六年（一六〇一）日田より佐伯へ移された高政は、番匠川の河口・塩屋村の八幡山に新城を築き、塩屋の浜を埋立て城下町を建設しました。

○三代高直
寛永一四年（一六三七）三の丸御殿を創建して藩政の場を山頂から三の丸へ移し、櫓門を設けました。

○六代高慶
宝永四年（一七〇七）の津波被害を受けて、中村外に大土手を、城下の外周に長堤を築きました。
宝永六年（一七〇九）より鶴屋城の修築にかかり天守を除いて創建当時の姿を再現、大手門・搦手門を整備しました。
元文元年（一七三六）の大火を受けて町割を再編し士民の居住区を設定。

○七代高丘
家中及び町家に瓦屋根を奨励しました。

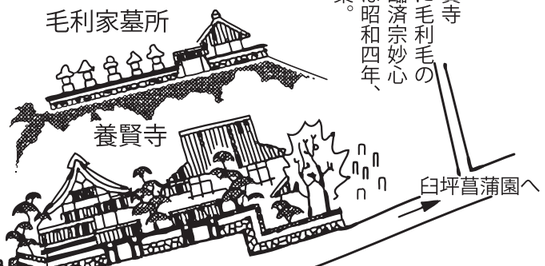
○八代高標
安永八年（一七七九）藩校「四教堂」を創立、天明元年（一七八一）城中に「佐伯文庫（蔵書八万巻）」をつくる。
このころ飢饉が続き、御典医・今泉元甫は藩に米一五〇石を献上し、城山の麓に三つの井戸を掘って窮民を救った。

○十二代高謙
文久三年（一八六三）三の丸下に南御殿（天祐館）を造営、明治四年（一八七一）七月廃藩置県によって佐伯県が発足したが同年十一月には大分県に統合された。

○明治のマルチ人間・矢野龍渓

藩校「四教堂」で学んだ龍渓（文雄）は、明治6年に福沢諭吉の慶応義塾を卒業しました。
教　職：慶応義塾教師・錦城中学校長
小説家：「経国美談」「浮城物語」
政党人：立憲改進党・太政官書記
　　宮内省式部官・駐清特命全権大使
新聞人：郵便報知新聞社長・大阪毎日新聞副社長

○明治の文豪・国木田独歩

「佐伯の春まづ城山に来たり…」
明治26年、英語の教師としてやって来た独歩は、城山の下の坂本家に下宿して、わずか一年たらずのあいだに、城山をはじめ佐伯の山野を歩きまわり、後に佐伯を舞台にした「春の鳥」「鹿狩」「源おぢ」などの作品を残しました。

◎藩主の菩提寺・養賢寺
毛利高政が慶長十年に毛利毛の菩提寺として創建、臨済宗妙心寺派。現存する本堂は昭和四年、庫裡は弘化二年の建築。
背後の墓所には毛利家歴代の立派な五輪塔が並んでいます。
六代高慶は藩祖高政の霊廟を築き高政の功績をたたえる霊廟記を掲げました。
霊廟の前には高政の愛した母・法雲院の墓石が据えられています。